

■10月号No74 (一般)
札幌市中央区北2条西7丁目 (参加無料)

当所の近年の主な研究成果や研究展開の方向性について発表するとともに、国の省エネ基準の動向と道が進める「きた住まいる」について情報提供します。

また、本報告会は(公社)日本建築士会連合会のCPD制度認定講習会です。登録単位数は、午前2単位、午後2単位、特別報告1単位、計5単位となっておりますのでお知らせいたします。

申込締切は過ぎておりますが、会場にまだ余裕もありますので、みなさまのご参加をぜひお待ちしております。

チラシ、申込フォームなどはこちらから。

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/index.html>

(企画課 北谷・盛永)

=====
研究紹介「“ひと・もの”のフロー」と「生活の質」からみた地域生活価値の要因解明(研究開発費)」
=====

唐突に「あなたはいま幸せですか？」と質問されたら、たいていの方は、自分が幸せかどうかを考えるよりも前に、「(なんだ？怪しげな団体の勧誘か・・・?)」と身構えて、足早に立ち去ってしまうことでしょうか。この研究も、同じような質問をする場面がありますが、けっして怪しいものではありません。その地域で暮らす人々を幸せにする要因(=地域生活価値)について、工学的に大真面目に解明しようというものです。

過疎化・高齢化が急速に進行している地域では、住民の移転を伴う集落再編の議論が、避けて通れなくなっています。しかし、移転先の条件として、コンビニや病院が近くにある、住宅が高性能であれば、そこに移った人たちは幸せになれるかと言えば、そんなに単純ではありません。便利さだけでは満たせない「何か」がいろいろとあることは、すでに様々な研究者によって指摘されています。それらは「地域愛着」であったり、「ソーシャルキャピタル(社会資本)」など様々な形で提案され、議論されていますが、非常に曖昧でとらえにくい領域であるため、まだ十分に解明されたとは言えない状況です。このような「とらえにくい」領域を、あくまで工学分野の研究として扱い、「どんな要因」が、「どのように」、「どのくらい」影響しているのか、を明らかにしようというのがこの研究の狙いです。本年度については、「ひと・もの」の動きややり取りが、人々の生活の質とどのように関連しているかを調べることで、地域生活価値の要因を洗い出そうと取り組んでいます。

難しいテーマではありますが、そこに暮らす人々を幸せにし、「ここに住み続けたい」と思わせる要因を明らかにできれば、住民移転に関わるような議論もずっと建設的なものに変えていくことができます。

私は、前職ではインドネシア国の都市スラムや、西アフリカ・ブルキナファソ国農村部に入り込んで、人々の生活を調査してきました。日本人からすると、彼らの生活は、非常に貧しく、不便なものに見えますが、実際に地域に入り込んでみると、大人も子供も案外幸せそうに暮らしていることに気づきます。「幸せ」のヒントは、むしろインドネシアやブルキナファソのひとびとの暮らしの中にあるようにも思います。このような前職での経験を活かし、あえて日

■10月号No74（一般）

本の地域社会を外の目線から捉えなおしたりしながら、地域生活価値を解明していきたいと思います。

（居住・防災G 牛島）

=====
イベントのお知らせ
=====

■道総研フォーラム「富良野圏域の分散型エネルギーの明日を考える」を開催します

道総研の戦略研究「地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築」（代表機関：北総研）は平成26年度に研究をスタートして2年目となりますが、このたび、本研究に関する協力協定を結んでいる富良野圏域5市町村との共催で、フォーラムを開催することとなりました。本フォーラムでは、道総研の研究チームから中間報告を行うとともに、地域で分散型エネルギーの活用に取り組む方々から話題提供をいただきます。地域のエネルギーの未来について考えてみませんか？

日時：平成27年11月19日（木）13：30～17：00

場所：富良野市役所1階大会議室
富良野市弥生町1番1号

内容：

- ・講演 道総研理事長 丹保憲仁
- ・戦略研究チームからの報告 北総研副所長 鈴木大隆 ほか
- ・地域の取り組み紹介
（小水力発電、地中熱利用、森林資源のエネルギー利用、ごみリサイクル）

案内チラシはこちらから。

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>

（環境G 立松）

=====
最近の研究所の動き
=====

■【構造計算適合性判定センターから】

□9月の判定業務

受付 10件（11棟）

結果通知 7件（9棟）

9月の判定依頼は、工場・倉庫等2件、事務所1件、共同住宅4件、その他でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は18.0日（前月比-3日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均

■10月号No74（一般）

日数は5.4日（前月比同程度）でした。9月の依頼件数は昨年度と比較すると7割程度（図書付事前相談を含めると同程度）となっています。

総判定日数については今後ともさらなる短縮に努めてまいりますので、申請者の皆様におきましても御協力頂けますようお願い申し上げます。また今後は先月実施させていただいた設計者アンケートなどをふまえ、より一層の審査の円滑化や利便性の向上などに取り組んでいきたいと考えております。

鉄骨造の露出柱脚について、柱脚基礎コンクリートの立ち上げ部破壊防止の提案式が存在していましたが、『2015年版建築物の構造関係技術基準解説書』ではより詳細に検討方法が記述されるようになり、最近の事前相談や指摘事項でも本検討式の要否などについて設計者と意見を交換しています。検討式を用いれば柱脚基礎コンクリートが大きくなるケースも多く、柱位置が室内側に移動する場合などが懸念されるため、申請する建築物が検討を要する建物かどうかなど御確認されますようお願い申し上げます。

（構造判定G 本間）

□【食べる・たいせつフェスティバル2015in旭川】に出展しました

「食べる・たいせつフェスティバル」は食や環境にかかわる団体、学校、行政などが参加し、楽しみながら食べることや、環境へ配慮することのたいせつさを知って・見て・体験できるコープさっぽろ主催のイベントで、旭川では10月11日（日）に旭川大雪アリーナで開催されました。

上川管内にある「上川農試」「林産試」「北総研」の三場が連携して企画、合同での出展は初めてでしたが、道総研ブースは多くの来場者で賑わいました。「つなげよう★ゆめのまちマップかみかわ版」は、地元産の稲穂やとうもろこし、樹木の葉っぱ、きのこなどでいつもとはひと味ちがった「実りの秋をむかえた上川地域」の立体的な地図ができあがりしました。

「つなげよう★ゆめのまちマップかみかわ版」の全体地図の写真はコチラからご覧になれます。

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>

（企画課 盛永）

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

■10月号No74（一般）

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所